

趣味

折りたたみ自転車 (2015. 12. 14 大阪より S.Y.)

先日、妻が突然、自転車が欲しいと言い出した。自転車なら以前玄関に置いてあったが、あまり使われることなく、粗大ごみとして捨てられたはずだが……。今なぜ自転車？聞いてみると、どうやら「折りたたみ式自転車」のことらしい。普段あまりものを欲しがらない妻が、久しぶりに欲しいと言い出したので、軽い気持ちで見に行くことにした。知らなかったが、折りたたみ自転車 (fold bicycle) は欧米のものが主流で、それだけを扱っている専門店があるらしい。早速、休日に外食を兼ねて北浜に出かけた。そこには、実にクールな乗り物が並んでいて、店員にも活気があった。明らかに新しい文化との出会いだった。偶然、試



乗できる特別な日だったこともあり、二人で周辺をぐるりと一周してみた。自転車は何年振りか。乗り心地は普通の自転車と変わらず、変速もスムーズで気持ちが良い。これならいずれ購入を考えてもいいかなと思ひ、とりあえず値段を尋ねると、主流は10万円前後と聞いて、その時期が遠のくのを感じた。たまたま試乗したのが一番安く7万1千円だったので、購入するならこれかなと言うと、妻もうなずいた。しかし、ここからの展開には驚いた。「今日買って帰ろう。私はこの色にするけどどうする？」と言い出した。え、今日！2台買うのかい！「私のバイトの貯金で払うから……。」それから車体の色を決めて、代金を払って帰った。年に何回か、京都や奈良公園に行くことがあった。車で行っても、歩きだと駐車場から行ける範囲に限られ、行きたいところに行けなかった。自転車を車に積んでいければ、行動範囲が広がり、楽しみが増えると考えたらしい。また、周囲の自然を肌で感じることができ、健康にもいい。高齢化社会には打ってつけの乗り物かもしれない。ということで、2台なければ意味がない訳だ。この貴重な発明品と妻の思い切りに感謝している。先週、早速、奈良公園をまわり、その威力を肌で感じた。2台は今、就職で家を離れた息子の部屋に置いてある。

バロック音楽(5)ポツペアの戴冠 (2015. 5. 19 堺より S.K.)

クラウディオ・モンテヴェルディ (1567-1643) という作曲家をご存知でしょうか。ルネサンス終わり頃からバロック初期に活躍したイタリアの音楽家です。バッハよりも約120年前の生まれになります。先日、最晩年のオペラ「ポツペアの戴冠」を演奏会形式で鑑賞する機会がありました。台本は歴史書に記述された実話に基づくもので、暴君？ローマ皇帝ネロが皇后オッターヴィアを追放し、愛人ポツペアを新皇后に迎えるという不倫成就物語です。この作品の解説には時折「勧善懲悪」との記述を目にします。しかしながら、単純に善悪の問題なののでしょうか？？登場人物には完全



な悪人も真の善人もいないように思われます。皇后オッターヴィアもポツペア殺害を強要します。皇帝の不倫を諭そうとする哲学者セネカについて、偽善的な面が語られたりもします。最後に歌われる極上の二重唱が、不道德な劇の終わりでありながら、私たちをととても幸せな気持ちに導きます。この作品は、後の芸術に時折みられるような理想を追求するものではなく、現実を素直に顧み、人生を考えさせるものではないのでしょうか。善と悪とが対立する物語に慣れている私たちに、この世に100%善なもの、100%悪なものなど存在しないと、再考を促しているようにも感じられます。近年、バッハ以前の音楽が急速に再評価されつつある中、このような初期オペラの希にみる傑作をバロック音楽専門家の生演奏で聴けるようになりました。50年後あたりにはモンテヴェルディが西洋音楽史を代表する音楽家 No.1 になっているかもしれません。(写真：17世紀初め頃にオペラが誕生した街、花咲く芸術の都イタリア・フィレンツェ)

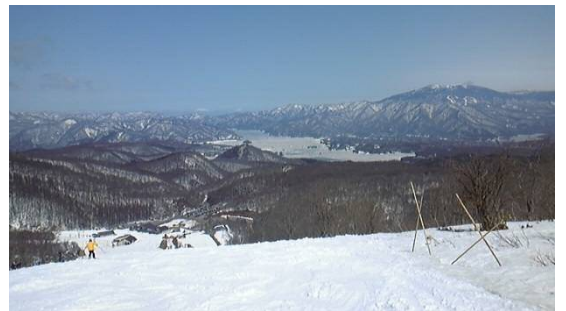
マジック その3 (2015. 4. 9 姫路より H.M.)

これまで、クローズアップマジックに使用されるカード、ステージマジックで使用されるシルクについてご紹介させていただきましたが、ステージマジックの中でも大がかりなものがイリュージョンです。日本では引田天功（現在は2代目）が有名で、年代がわかってしましますが、EXP070で、自動車が空中に浮遊しているのを見たことを記憶しています。毎年、趣味のクラブで発表会をしておりますが、イリュージョンをしたいとの声があがり、いろいろ調べましたが、購入するには極めて高価であるため、作製することにしました。作製したものは添付写真（実際の演技中の写真。顔は隠しておきます。）のもので、空の箱から人が出現するものです。設計図作成、ホームセンターで合板、パイプ等購入し、休日毎に少しずつ部品を作りあげていきました。持ち運びしやすい（それでも大きいのですが）ように分解組立できるようにしてあります。本番では、この箱から二人がでてきます。さて、タネはわかりますか？考えてみてください。この続きはまた次回の投稿の機会に・・・



スキー (2015. 2. 2 仙台より T.A.)

毎日、寒さ厳しい季節になりました。インフルエンザも流行しており、注意が必要です。外は寒いので室内で暖かく過ごすのもよいですが、この時期、スキーができるので私には楽しみな季節です。仙台には、市内から車で30分も走ればスキー場があります。県内、県外にも多くのスキー場があります。最近ではスキー人口が減りスノーボードをする人が多く、いまだスノーボードができない身としては肩身の狭い思いをしています。古い話ですが、1980年代の「私をスキーに連れてって」全盛の頃は、リフト待ち30分、食事待ち1時間も当たり前で、どこに行っても人がたくさんいたものです。当時、私は小学生で、友達と毎週のようにスキー場に出かけ、混雑した中でも楽しかったのを覚えています。昔に比べると施設・環境も格段に良くなり、時代も変わったと思います。体力が続かず、以前よりスキーに行く回数は減りましたが、寒さに負けず外で体を動かすことは、よい気分転換になります。



つくばマラソン (2014. 12. 1 仙台より Y.T.)

11月23日、仙台から足をのばし、つくばマラソンに参加しました。紅葉が見事な筑波大学構内からスタートし、研究機関が点在する整然とした市街地、筑波山を望むのどかな田園風景とコースはバラエティに富んでおり、また、天気にも恵まれ、楽しく走ることができました（途中までは…）。自分で設定していたペースも維持できていて、周りの景色を楽しんだり、沿道の応援に応える余裕もあり、今日は調子いいかなと感じていたのですが、一転、25km付近で足が急に重くなり思うように動かなくなり、膝、股関節の痛みで走ることができなくなり、少し走っては歩いてを繰り返しているうち、遂には歩くのもやっとという状況になり、29km地点で途中リタイアという悔いの残る結果となりました。マラソンは、完走すれば達成感をまた味わいたくなるし、次なる目標も出てきます。今回のような悔しい思いをすれば、次回は必ずリベンジしたいという思いも強くなるし、いずれにしてもしばらくはマラソンはやめられなさそうです。



バロック音楽(4)ゴルトベルク変奏曲 (2014. 9. 24 堺より S.K.)

J.S. バッハ晩年の名作「ゴルトベルク変奏曲」、タイトルは、不眠症の伯爵がバッハの弟子でもあったゴルトベルクを雇い夜な夜な演奏させた、という逸話にもとづく呼び名で、原題は「アリアと様々な変奏」といいます。実際、大変美しいアリアに続いて30の様々な変奏が登場しますが、どれもが一見（聴）全く別の音楽と感じるほど変化に富んでいます。各変奏はアリアのバス（低音）に基づくもので、同一のバスを用いてこれほど多様な音楽が作られているの



です。高校生の頃に初めて聞いた際、大変驚いたのを覚えています。30番目最後の変奏に“歌遊び”が登場します。アリアのバスはほぼそのまま、そのバスによって当時の流行歌二つの旋律が流れます。それらの歌詞は、(1)「長いこと御無沙汰だ、さあおいで」、(2)「キャベツとカブが俺を追い出した、母さんが肉を料理すればもっと長く居たのに」、つまり、(1')「長いこと“アリアに”ご無沙汰だ、“アリアさん”出ておいで」、(2')「(食べたくない)キャベツとカブ(=30の変奏)に邪魔された」です。ここでバッハは一流の謙遜をして、日本流に言うと、「つまらない変奏をたくさんお聴かせして失礼しました。お口（耳）直しにもう一度アリアをどうぞ」と言っているように思えます。そして最後にアリアが再演されて終わります。18世紀前半、芸術がまだ“個人の感情・思想表現ではなかった”時代、西欧にも素敵な謙遜の心があったのでしょうか。ちなみにドイツ語で、バッハ=小川、ゴルト=金、ベルク=山なので、小川氏作曲の金山変奏曲？写真：初めて購入したレコード、および近年演奏会で聴いた3人のチェンバロ奏者によるCD

バロック音楽(3)G. レオンハルト (2014. 8. 20 堺より S.K.)

その年3月、携わっていた日中ほぼ監禁状態になる某業務の3日目午後、めまいのように感じて疲労もこれほどかと思ったその時、窓のブラインドがゆっくり揺れているのに気づきはっとしました。これほどゆっくり揺れる地震の経験はなかったので、大阪から離れたところで大変な地震が発生したのではと思いました。未曾有の大震災で関東地方でも閉鎖された音楽ホールもあったと伝えられたように思います。また風評もあってか、予定されていた多くの来日公演が中止になりました。そのような状況においても、その年5月にグスタフ・レオンハルト氏は予定どおり来日してくださいました。彼は作曲された当時の様式、オリジナル楽器を用いた演奏活動の中心的な役割を果たしてきたオランダの鍵盤楽器奏者で指揮者です。現在世界的に活躍しているチェンバロ奏者のほとんどが、彼の直弟子または孫弟子です。90年代からほぼ3年毎に来日公演があり、いつも年齢を感じさせない演奏を聞かせていました。この日、ご一緒していただいた知り合いの方、お二人ともとても感じるころがあったようでした。翌年の正月、レオンハルト氏の訃報が届きました。患われていた癌が悪化したとのこと、大変驚いたことに、前年5月の公演の折には既に食事も満足にできないほどの体調だったそうです。83歳のご高齢でそのような健康状態にもかかわらず、震災の風評も気にせずに来日してのリサイタル、最後の日本公演に同席できたことに感謝するとともに、ご冥福をお祈りしたいと思います。写真：G. レオンハルト リサイタルのちらし (1993-2011)。「音楽の真実」というキャッチ・コピーが目を惹きます。



散歩の薦め (2014. 6. 10 姫路より N.M.)

「マラソンしてみたい」とチラシを見た小1の娘が言い出した。どうやらマラソン大会の2.1kmの小学生部門に出たいらしい。しかし問題は「保護者が一緒」の文字。メタボになって幾年月、一抹の不安がよぎるものの「子供のペースならきっと無問題」と暢気な私は2月末に小1の息子&娘とマラソンを走ることになりました。しかし2月末といえば工学部教員にとって過酷な時期、しかも10日前になってようやく散歩を始めるといふ為体。大会当日、スタート



ダッシュする他の親子連れの姿に準備不足を後悔するものの、娘のペースなら息切れしないことが分かり安心。余裕ができた所で「コラムに載せる写真」を思い出し、「ちょっと先に行くから」と20mダッシュを敢行。しかし振り向いて構えたデジカメのモニタには娘の姿だけ。私を真似てダッシュした息子は既に目前まで迫っていた。「2人並んだ写真が撮りたいから」と再度ダッシュしても結果は同じ。息子の成長が嬉しい反面、日頃の不摂生を自省することになりました。そんな訳で現在子供達の登校に合わせて朝の散歩をしています。通学路にあるコンビニまでの片道600mを子供達と話しながら。一緒に登校するのを子供達が嫌がるまでは「コーヒーを買うついで」という口実で朝の散歩を続けるのも良いかと思っています。(写真：登校する子供達を見送りつつ)

バロック音楽(2)オリジナル楽器 (2014. 5. 20 堺より S.K.)

クラシック音楽は、いわば西洋の伝統芸能のようなものなので、今から300年以上前バッハ(1685-1750)やモーツァルト(1756-1791)が活躍していた時代から、そのまま受け継がれていると思いがちですが、今日一般的な演奏スタイルが確立したのは、実際のところ第二次大戦後らしいです。バッハ以前の時代から今日まで使われている楽器、ヴァイオリン族、フルート、オーボエ、トランペット、ホルン、ティンパニ等、どの楽器もずっと変化し続けてきているのをご存知でしょうか。中でも18世紀始めに誕生してから20世紀始め頃にかけて、最も大きく変化したのがピアノではないかと思われます。楽器が変われば奏法も違ってきます。例えば通常のモダン・ピアノによるベートーベンの演奏では、作曲者が楽譜に指定した表情記号(スラー等)は踏襲されていません。時には音符自体が変更されていることもあり得ます。20世紀初め頃から始まったオリジナル楽器復興運動、すなわち作曲された当時使われていたタイプの楽器を用い当時のスタイルで演奏する様式は、1970年代ごろから盛んになり、バッハ以前のバロック音楽演奏においてはむしろ主流になってきました。最近では、ラベルが1928年に作曲した「ボレロ」までもが当時の様式で聴けるようになっています。楽器の写真が掲載されている参考書を紹介します。「ピアノの歴史」の付録CDでは、有名曲のオリジナル・ピアノによる演奏を聴くこともできます。

佐伯茂樹著「楽器の歴史」(河出書房 2008)、「楽器から見るオーケストラの世界」(河出書房 2010)、小倉貴久子著「ピアノの歴史」(河出書房 2009)

写真：バッハが生まれた町、ドイツのアイゼナッハにある幼少時を過ごしたと伝えられる家(バッハ・ハウス博物館)



バロック音楽(1)バッハ (2014. 4. 21 堺より S.K.)

ドイツの音楽家バッハ、小中学校の音楽室で左端の方にかつらをかぶったいかめしい感じの肖像画がかかっていたように思います。「音楽の父」という肩書もあり、多くの方が西洋文化史の中で古い時代の音楽家であるような印象をお持ちではないでしょうか。そこでクイズです。次の3人で一番古いのは誰でしょう。

レオナルド・ダ・ヴィンチ

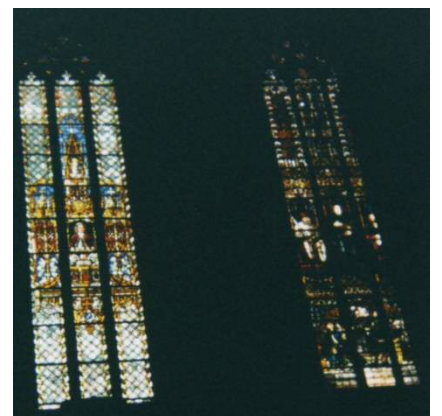
ウィリアム・シェークスピア

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

ダ・ヴィンチ(1452-1519) [盛期ルネサンス、日本は室町時代(戦国時代)]、シェークスピア(1564-1616) [後期ルネサンス、日本は安土桃山時代]、バッハ

(1685-1750) [後期バロック、日本は江戸時代]の順でした。バッハが一番古いと思われた方はいませんか。実際バッハが活躍したのは日本では八代将軍吉宗の時代です。バッハより200年以上前、ダ・ヴィンチの時代に活躍した音楽家も数多くいましたが、まだ一般にはあまり知られていません。ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」に対応するルネサンスの佳作として、例えばジョスカン・デ・プレ(1440?-1521)作曲の「アヴェ・マリア」があげられるかと思えます。

音楽の父バッハと古典物理学の代表アイザック・ニュートン(1642-1727)とがほぼ同時期であるのは象徴的であるように思われます。というのは、ニュートンが、ケプラー、ガリレイ、デカルトなどそれ以前の観測・実験結果と考察を統合することにより力学の法則を確立したように、バッハは中世以来のヨーロッパ各地における様式、旋律的音楽と和



声的音楽を統合することにより、後世の音楽家にとって基本となる作曲技法を提示したと考えられているからです。
写真：バッハが生涯の後半に活躍したドイツ・ライプツィヒ聖トーマス教会内。バッハ（左）とルター（右）のステンドグラス

「朝ラン」のすすめ (2014. 2. 10 姫路より M.S.)

12月23日第25回記念大会となる加古川マラソンに参加しました。結果は3時間5分10秒で自己記録を4分程更新できました。ひよんなことからランニングにハマって1年と少しになりますが、自分の生活スタイルに合わせてトレーニングできるのと、走り続けるうちにレベルアップが体感できるところがハマった理由だと思います。私の場合、トレーニングはもっぱら朝（食事前）に行っています。そして、皆さんにぜひともお勧めしたいのがこの「朝ラン」です。朝（食事前）というのは、身体にエネルギーが少ない状態です。その状態で走ると身体は脂肪をエネルギーに変えようとするので、実はダイエットしたい人にもお勧めの「痩せる」時間帯なのです。もちろん「走る前にストレッチや体操を軽く行う」「最初の5~10分程度はウォーキング、身体をほぐしてから走り出す」「走る前に必ずコップ1杯の水を飲む」などいくつか気をつけたいといけない点があります（いきなり身体に負荷をかけると故障などの原因になります）が、爽快な気分が味わえるとともに、いろいろな面で効果は絶大です。ぜひとも「朝ラン」に取り組んでみてはいかがでしょうか。



マジック その2 (2013. 12. 10 姫路より H.M.)

今年の1月に、指導していただいている先生からの薦めもあり、関西のアマチュアマジシャンが集まる大会（参加者約500名）のコンテストに出場しました。自身のレベルを考えると場違いと思いましたが、参加者全てがマジックを愛好する方々という場でマジックをするというのはまたとない機会であり、良い経験になると考え、参加を決めました。演目はシルクのみを使用したマジックです。結果は予想通りでしたが、楽しいひと時を過ごせました。さて、今回はステージマジックでよく使用されるそのシルクについて紹介します。シルクとは絹のハンカチの総称です。マジックでハンカチと言わずシルクと言います。シルクには様々な大きさ（90cm・60cm・45cm・30cm・20cm・のベシルク）、色（黄・山吹・橙・桃色・赤・藤・紫・青・水色・緑・黄緑・白・黒）のものがあります。色の効果、演技内容を考えながら、そのマジックに使用するシルクを選びます。元々シルクは、ほかの物体を出現させたり消失させたりするための補助的な道具として扱われていました。シルクそのものがマジックの主役となることが少なかったようです。しかし、近年、シルクのみを使用したマジックも披露されるようになってきています。マジックを見る機会がありましたら、どのようなシルクが使用されているか観察してみてください。この続きはまた次回の投稿の機会に・・・



ウォーキングのすすめ (2013. 7. 22 堺より H.N.) (注) エクササイズ推奨ではありません

筆者が思うに、現代人にとって最も必要なものの一つは、「何にも邪魔されずに一人で何かを考える時間」ではないかと思う。今の世の中は、スマートフォン経由でウェブ上の無限の情報にいつでもどこでもアクセスできる世の中である。大量の情報を収集するのはいいが、それを自分の中で消化できずに、ミイラ取りがミイラになっている人は多いのではないのか？ かく言う筆者も時折ミイラになっている自分に気づくことは多い。そこで、どうするか？ である。おすすめはずばり、「歩くこと」である。筆者は、今年の1月から自宅と職場間の移動を歩くようにしている。距離は約2.2 km、所要時間は約30分。今日までの半年間、ほぼ



毎日歩いている。歩くことを始めた動機はいわゆるエクササイズであったが、歩くことには別の素晴らしい効果があることに気付いた。すなわち、「歩きながら考える」時間を無理なく自然に取れるということである。仕事の段取り、研究のアイデア、職場の人間関係、人生について、etc. といろんなことを考えることができる。結論から申し上げますと、このウォーキングというものは良い。非常に良い！（西田幾太郎が哲学の道を歩いたのは、運動のためではなく考えるために違いない！）そこで、読者の皆様には、考えるための儀式としてのウォーキングを強くお勧めします。疲れる？汗をかくのが嫌？日焼けは勘弁？そんなデメリットを補って余りある効果が「歩きながら考える」ことにはあると（極めて個人的に）思いますよ！

走る！ (2013. 2. 12 大阪にて H.A.)

1年前の健康診断での数値に驚愕した私、このままではいけないとランニングを始め、昨年11月最後の日曜日、運良く当選した第2回大阪マラソンで気付けば大阪の街を3万人のランナーの一人としてひた走っておりました。大阪は姫路から新快速で1時間、姫路っ子にとっては近くて遠い大阪…心は不安でいっぱいでしたが、まさに秋晴れ青く澄み渡った空の下、御堂筋の黄色に色づいた銀杏並木を走り抜ける頃には、爽快感から不安もどこかへ吹き飛んでいました。コースは大阪の見所が盛り沢山で、走っては写真をとる（掲載はその中の一枚、中之島公会堂です）お上りさんランナーでしたが、沿道からは温かい声援、中には「足が痛いんはなあ、気のせいやからなあ。がんばれ〜」なんていう声も…。お陰で自分も足が痛いことに気付くというお約束もありながら、走りきる頃には日頃の煩わしさから解放され、すっかりリフレッシュ（体はヘトヘトでしたが）しておりました。姫路でもマラソン大会、実現したらいいのになあ。



ワインの話 その4 (2013. 1. 21 堺より S.K.)

いつしか赤ワインに親しみ、葡萄の品種名もいくつか認識するようになって、国産ワインにも目が向くようになりました。私は信州出身であるひいき目もあってか、長野県塩尻市桔梗が原のメルロー種による赤ワインはまずまずのもの、という気がしていました。大阪から実家へ向かう際、名古屋発の列車が塩尻駅に到着する数分前、桔梗が原の葡萄畑を抜けて走ります。好天にめぐまれると、葡萄畑の向こうに北アルプスも見えます（写真）。ちなみに塩尻駅のホーム内には、ワイン樽のモニュメントとブドウ棚があり、ワインの街と自負していることがうかがえます（写真右下：雪化粧した塩尻駅ホーム）。日常あまり白ワインをいただかないこともあり、国産の白ワインもほとんど試したことがなかったのですが、先日、親しくしていただいている先生の紹介で、大阪府羽曳野市にある河内ワイン館を訪れる機会がありました。オーナーの女性はなかなか活動的な方で、「ロマネ金亭（こんてい）」という芸名でフランス語による落語もされているようです。酒蔵見学の後、試飲させてもらった自信作というシャルドネ種の白ワインはなかなかのものでした。みなさまも機会がありましたら、河内ワインのシャルドネを試されてみてはと思います。



マジック (2012. 10. 10 姫路より H.M.)

皆さんはマジックと聞いて何を思い浮かべますか？インターネットで検索すると、人名、音楽、商品名等いろいろ出てきますが、ここでお話するのは日本語でいう「奇術・手品」です。私がマジックと出会ったのは学生時代です。先輩に誘われて奇術同好会の門を叩いたのが最初でした。誘ってくれた先輩は工学部の実験が忙しく、私を置き去りにしてすぐにやめてしまいました。私は2年間、他の先輩に教わりながら練習(?)を続けていました。



今ではマジックショップも多く、また、インターネットで購入することも出来ます。しかし、その当時は地方の大学ということもあり、町にマジック道具を売っている店はありませんでした。先輩が都会(?)に行った時に購入してくれたものを用いておりました。最初に教わったのがカードマジックです。カードマジックで使用するのはカジノでも使用されているBICYCLEのカードで、いろいろなサイズがあります。大学時代はこの様々な大きさのカードを使い分けてマジックを行っていました。その後、大学を卒業してしばらくマジックから離れていました。しかし、数年前現在住んでいる地域の公民館でマジックの練習を再開することになりました。この続きは次回の投稿の機会に・・・

写真は左から：ミニサイズ（ポーカーサイズの1/2）・ブリッジサイズ・ポーカーサイズ・ジャンボサイズ（ブリッジサイズの4倍）

ワインの話 その3 (2012.8.22 堺より S.K.)

何時のことか黒海の東にあるグルジアという国のワインは知る人ぞ知る存在、という話が頭の片隅にセットされ、新潟にあったテーマパークで見つけた際に1本買い求めてみました(写真)。なるほどそれなりの味、と思ったような記憶があります。その後、所属していた学科にグルジアの隣国アゼルバイジャン出身の方が助教授として着任され、グルジアワインはとにかく美味しいという話になり、ネットで購入するようになりました。当時学科の懇親会で買い出し係を務めていた私は、何回かメニューにグルジアワインを加えましたが、それもいつしか過去のことになりました。それから10年近くたち、いつも実験装置の維持管理でお世話になっていた技術職員の方に何か私らしいお礼をと思っていました。その方はあまりお酒が得意ではなかったのですが、甘口のものなら喜んでもらえるはずと思いました。そこでまだ一般にはあまり知られていないグルジアのセミスウィートワインを差し入れる申し出をしたところ、その部署のチーフの先生がお知り合いの方にも声をかけて下さいました。その日グルジア産の赤ワイン、幾分甘いものに加えて辛口ミディアム・ボディのもの、それぞれ1本ずつ携えて行きました。そこで初めてお会いした先生が二つのワインが同一品種の葡萄から醸造されていることを即座に当てられたのには大変驚きました。このような集いを重ねるにつけ、ご一緒してもらう皆様とほんとうに素敵な友人になっていただくことができました。



ワインの話 その2 (2012.6.20 堺より S.K.)

大学院生として6年間過ごした仙台を離れて堺に赴任した後、初めてヨーロッパでの国際会議に参加した際の機内、長いフライト中にミニボトルをいただいたのがきっかけで、その後参加した国際会議でのバンケット等でもワインをたしなむようになり、私にとってワインはだんだんと親しめる飲み物となっていきました。そうしているうちに1994年の夏、初めてフランスでの国際会議に参加しました。せっかくフランスに来たので、1本それなりのボトルを買い求めてみようと思っていました。帰路パリ・シャルル・ドゴール空港の免税店で、フランス人にはめずらしく背の高いすらっとしたお姉さんにお勧めを聞いてみたところ、「これ」と指示されました。素直にその1本を購入して帰り、一人で開けてみました。少なくともそれまでいただいたどれとも違う、ということはわかりました。今でもボトルを保管しています(ラベル写真)。この時からワインに関する解説を読んだりして、葡萄の品種名も少しずつ覚えるようになりました。折しも日本でもワインブーム、ボルドー有名シャトーを女優さんが訪問する番組での、まさにそのChateau Latourオーナーによるコメント2つが今でも記憶に残っています。その1:「私たちのワインは音楽にたとえるならバッハです。」J. S. Bachは私にとって西洋音楽における大日如来のような存在なので、私個人としては大変印象的でした。その2:「オーナーはどのヴィンテージが一番好きですか」というレポーター役の女優さんからの質問に答えて、「あなたはご自分のお子さんに優劣がつけられますか。」!!!



ワインの話 その1 (2012. 5. 21 堺より S.K.)

かつて東北大学金属材料研究所に大学院生として配属され、まず取り組むことになったのはバレーボールの練習でした。夕方、実験用試料作製のため試薬を天秤で秤量していると、後ろから隣の研究室所属の同級生によるお誘い、「バレー！」。天秤の上に試薬粉末を置いたまま、当時中庭にあった屋外コートに行ったこともありました。毎年春から初夏にかけて恒例だった研究室対抗バレーボール大会では、多くの参加者が真剣に取り組んでいました。セミナーでは感情的な指摘をされることなど無かった教授の先生にも、バレーコートでは怒られたりしました。ところで、スポーツ後にはビールです。毎週のようにビールをいただきました。このように金研で過ごした6年間は、良く学び良く遊びを実現できたように思っています。その頃の私にとって、アルコールといえばやはりビールがメインで、時折日本酒等をいただく程度、たまにはワインを試してみようと思い、アパートの近所、八木山の緑ヶ丘にあった酒屋さんで個人的にワインを購入してみたこともありました。その際おまけにグラスをもらいました（写真左右の小さなグラス）。今でも食器戸棚の片隅にいて、見ると仙台を思い出して懐かしくなったりします。ただし後日購入したボルドータイプのもの（写真中央）と違い、最近はほとんど出番がなくなっています。仙台での6年間にワインを数本試したと思いますが、特に赤ワインは積極的にいただくとは思いませんでした。仙台を離れて堺に赴任してからワインに親しむようになり、ワインの無い人生は考えられないくらいにまでなりました。そのきっかけはまたお話しさせていただくことに。

